

## 公認会計士になりたいと痛感した2日間

2007年度卒業(会計専門職専攻) 西村 善克



本年、10月4日、5日の2日間、第17回アジア・太平洋会計士会議(CAPA)が大阪で開催され、関学のASの学生として参加した。オープニングセレモニーの後、松下電器会長の中村氏の特別講演があり、その中で氏は、企業が継続的に発展していくためには、経営理念の確立が最も大切であると述べられた。

その後、今回自分が最も注目していた各国の会計士協会の会長によるパネルディスカッションがあった。その中で「会計基準の統合が不可避であること」が述べられていた。私は、現在の各国の会計基準はその個性を尊重しながら統合されていくことが重要ではないかと思った。会計基準の統合は今後注目していきたいテーマである。

あつという間の2日間であった。開催前は、受験勉強中の自分が参加して果たして役立つのか疑問もあった。しかし、参加されている公認会計士の方々を拝見し、いかに公認会計士という職業が夢のある職業で将来性があり、社会に貢献でき、誇りの持てる職業であるかを実感した。是が非でもこの職業につきたいと痛感し、受験勉強のモチベーションを高めることとなった。また、閉会式の後、日本公認会計士協会の増田会長をお見かけし、思わず写真を1枚撮らせていただいた。そのとき、力強い励ましの言葉と握手をいただき、よりいっそう公認会計士になるという自分の目標に向けて頑張ろうと決意した。4年後にはブリスベンでCAPA大会が開かれる。そのときには公認会計士として参加したいと強く思った次第である。

## 第50回CAPA大阪に出席して

2007年度卒業(会計専門職専攻) 徳田 博紀



本大会のメインテーマは「アジア経済発展に向けた公認会計士の役割」であり、大会を通じて会計士がアジア経済の更なる健全な発展のためになすべき業務、期待されている業務が話し合われた。

パネルディスカッションでは、国際会計士連盟、日本、中国、韓国、インドの代表者5名によって討論がなされた。テーマは「アジア経済発展に向けた公認会計士の役割」であり、会計士が国家の発展に寄与していること、地域を越えた協力が必要であること、職業専門職としての高い倫理観の必要性は代表者の共通認識であった。また、議長による質問の中で、各国ともコンバージェンスの重要性と必要性について強い同意を示しており、国家間での協力が必要不可欠であることを示していた。

分科会で私は、「事業承継と種類株式の活用」、「わが国の内部統制報告制度の有効かつ効率的な実施に向けた具体的対応について」、「ASBJにおける会計基準の国際的コンバージェンスの取組みについて」に出席し、その中でも、「ASBJにおける会計基準の国際的コンバージェンスの取組みについて」の講演が一番印象に残った。会計基準設定主体であるASBJを取り巻く環境の変化、コンバージェンスに対する取組み、今後の対応について生で聴くことにより、書籍からは得られないコンバージェンスについての理解を得ることができ、とても有意義な時間を過ごす事ができた。私は、このような大会に参加するのは初めての体験であり、とても多くの衝撃を受け、本当に多くの貴重な体験をすることができた。